

山行番 NO. 1777-2
日時 2017. 7. 29 (土) 曇り
山域 焼岳北峰 (2444m)
コース 起床4:00-焼乃湯4:45-登山口5:10-焼岳小屋分岐7:10-旧中尾峠7:40-
焼岳北峰8:40~9:00-中尾峠9:58-焼岳小屋分岐10:18-登山口11:50
焼乃湯12:00
時間 上り=3時間30分、下り=2時間50分
標高差 上り=登山口1280m~焼岳北峰2444m=約1164m
下り= "
参加者 GT (L)、KH、HT、HA、GM、KY、MM、MT=8名

穂高が見えず残念・・・

朝、4時前に起床。旅館で作ってもらった朝食のおにぎりとゆで卵（柔くて殻が剥けない）、それに自宅から持ってきた忍野産トウモロコシを食べて、5時前に旅館を出発。曇り空で、登山口に到着する前から蒸し暑い。



登山口

登山口から上り始めると、すぐに急坂のうっそうとした森の中に突入。風もなく、蒸し暑く、ただひたすらに登りが続き、汗が滝のようにでてきて、まるでサウナ風呂に入っているような状態になる。

途中に白水の滝（しらみずのたき・45m）を遠望。地肌が茶色なので、水が濁って見えた。



白水の滝

しばらく歩いて、森の中の神社で休憩。何でこんな森の中に神社があるだろう？調べたら、三木姉小路秀綱（みきあねがこうじ ひでつな）でした。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A7%89%E5%B0%8F%E8%B7%AF%E7%A7%80%E7%B6%B1>



秀綱神社

休憩後、しばらく登り続けるとうっそうとした森から抜けて、視界がよくなり、少しは歩き易くなった。

さらに登り続けると焼岳小屋分岐があり、焼岳方面に向かう。しばらく登るとあざみが咲き乱れる広場のような場所があった。このアザミは、「ノリクラアザミ」と呼ばれるもので、普通のアザミに比べ、葉のギザギザが少ないのが特徴。



焼岳小屋分岐



ノリクラアザミ

さらに登ると岩場になり、いよいよ焼岳北峰に向かう厳しい最後のルートとなった。そこからは中尾温泉からだけではなく、上高地方面からの登山者とも合流し、ルートは渋滞状態となった。特に夏山登山の高校生グループもあり、渋滞の原因になっていたようだった。中尾峠ルートは、中の湯ルートに比べ、やや厳しい感じだった。ようやく中の湯ルートと合流し頂上までわずかになった。激しい硫黄の吹き出しを左に見て、ちょっとした岩場のステップを越えると、頂上の標識と多くの登頂者が見えた。私は写真撮影でやや遅れたが、皆さんは記念写真を済ませていた。



焼岳山頂は人が多く、短時間の休憩後、下山となったが、ビールを頂上まで持ってきたので、後藤さんすら飲まないのに、私は意地で一本飲みました。また、一瞬視界が開けてお釜池？も見ることができました。ただ、霧で穂高連峰が見えず残念だった。



頂上直下





焼岳北峰山頂



頂上お釜

帰りは、登ってきたルートをただひたすら下るだけで、かなり脚が疲れました。中尾温泉からのルートはかなり厳しいと感じましたが、ケガもなく、12時前に下山できて良かったです。

下山後の焼乃湯の温泉は本当に気持ちがよく、足の疲れもだいぶ回復したように思います。



女性班



硫黄噴出口



変なおジサン



懐かしいフランス製ザック



下山



旧中尾峠



キリフネソウ



駐車場



焼乃湯館



美味しい昼食



飛騨トンカツ



GMさんの豪華ランチ



更にソフトクリーム

その他の記述（GT）

1. 下山中、尻から転倒した際、右手が腐れ木に突っ込み、右手親指の爪の間に、腐れ木が入り込み受傷。下山時は、転倒し手を突く可能性が高い。グローブをはめて、手指を保護したほうが良いと痛感した。
2. 頂上に高校生の一団。前後して上って来た。上級生は大人っぽかったが、下級生は子供っぽかった。Mさん、しきりに女子上級生が気になった??!!
3. 下山時、ザックに動物の縫いぐるみ3体を入れたオジサンと遭遇。結構、イイ歳に見えたが、何かヘンなオジサンだった。
4. 下山後、焼乃湯で無料入浴。なかなかイイ温泉。ここは、二十年くらい前に宿泊した。
5. 宿から林道を上った場所に、温泉の発電施設があった。

（了）